

藤田精治 水戸市森林公園内に、観光と野外活動用施設として、遊歩型温泉施設を計画し、この地域の多面的な開発を検討してみてもどうか、伺います。

この森林公園は、前沢地区約85ヘクタール、成沢地区約58ヘクタールの合わせて143ヘクタールの面積を有し、公園内にはアカマツ、スギ、コナラ、クヌギを中心とした雑木林等から成る自然公園であり、明治100年を記念して、自然環境の保全と緑の育成を図り、市民に自然との触れ合いの場を提供して、森林レクリエーション場の有効適切な活用を目的として設けられました。近年、スポーツの多様化に伴い、その新しい種目として野外活動という分野がもてはやされるようになり、屋外キャンプ場の整備も各地で急速に進められています。この森林公園も年間約30万人近くの人々に利用され、その利用形態もいろいろあって、オリエンテーリング、フィールドアスレチックのコースとして、また野鳥・植物観察会の会場としての人気もあり、それに加えて幼稚園児や小学生の遠足のときの野外教室になったりして、市民みんなのレクリエーション会場として親しまれているのが現状です。

現在、施設整備については農業の育成及び農業者の研修、来園者に対する余暇活動の場としての機能を備えた自然環境活用センター、幼年、少年向けの遊び空間として、恐竜像やジャンボ滑り台を初めとする遊具、展望台等も設置されてきました。他方、家族そろってのレクリエーションの場として、駐車場や林道も整備されています。新たな特産品として、やぎ乳によるチーズ等の開発やその事業に必要なやぎ乳チーズ加工場である森のシェパード館、やぎの飼育舎、ふれあい牧場での手づくりのアイスクリームやナチュラルチーズの販売、特にやぎとの触れ合いは多くの来園者から子供たちの情操教育にも役立つと喜ばれています。

都市と農村の交流のための森の交流センターでは、地元の緑の村推進協議会や観光果樹組合が中心となり、青空市の開催やそば打ち、リンゴジュースづくり等の各種加工体験が実施でき、多様化する余暇活動に対応し、森林浴、自然散策、森林体験の提供にも多大な貢献をしております。

そこでお伺いしますが、このような水戸で一番すばらしい森林公園台地に、水戸市内を一望できる露天風呂を備えた大パノラマ温泉施設を計画してみてもいかがでしょうか。今日、全国的に公共温泉施設が普及し、のんびり、ゆったり温泉大好き人間にとっては、これ以上の楽しみはありません。日本列島大体どこを掘っても温泉が出ると言われており、この森林公園一帯を考えたとき、温泉の出る確率は大であると思われれます。県内外からの保養を兼ねた人たちからの好評を受けるために、交通の利便性、地域ぐるみの環境整備には、十分な各種の調査を本格的に実施した結果を踏まえて、実現可能の方策を選択することもお願いしておきたい。水戸市民を初め、近隣各地から出かけてこられる皆さんの憩いの場としての、温泉を中心とした遊歩施設の実現についての、市長の見解をお伺いいたします。

市長 岡田広 森林公園の温泉施設の計画についてお答えいたします。

森林公園につきましては、昭和43年から遊具、休憩施設、恐竜の森、森の交流センターなどの整備を図ってきたところであります。また、地域農家と一体となって周辺の観光果樹園の造成を進め、都市と農村の交流を展開しながら当該地域の活性化を図ってきたものであります。

一方、観光面からも憩いの場として魅力ある地域となっており、さらに今後、水戸周辺の交通体系の整備が進むことにより、広域的な観光振興が見込まれるところであります。

したがいまして、御質問の森林公園に観光と野外活動施設としての温泉施設の建設計画につきましては、議員御提案の趣旨を踏まえ、先進類似施設等の状況並びに国、県等の振興施策や制度などの調査研究を進めてまいりたいと考えております。